

## 第4章

# 各圏域報告会

# オレンジカフェ報告会

## ～健康セミナー～

日 時 平成27年11月13日（金）  
午前10時～正午  
会 場 気仙沼駅前コミュニティセンター  
主 催 気仙沼市上地区社会福祉協議会  
気仙沼中央公民館

## 次 第

1. 開会
2. 開会挨拶 気仙沼中央公民館長 吉田 司
3. 講師紹介 特定非営利活動法人なごみ  
グループホームポラーノ 介護支援専門員 石森陽子 氏  
グループホームポラーノの杜 介護支援専門員 三浦 恵 氏
4. 講義 「認知症の正しい知識を身につけよう」  
認知症予防体操  
質疑応答  
オレンジリングについて
5. 認知症劇 「家に帰ります」「ご飯まだかね？」
6. オレンジカフェ開催報告
7. 閉会挨拶 気仙沼市上地区社会福祉協議会会長 佐藤 直樹
8. 閉会

## オレンジカフェ報告会～健康セミナー～の様子



開会挨拶



講義



認知症予防体操



認知症劇「家に帰ります」



認知症劇「ご飯まだかね？」

# 認知症カフェの 取り組み



グループホーム ふかふか・はうす  
管理者 中津留美津江  
平成27年12月22日

# 大崎市（玉造地区）における 高齢者の人口等推移

（平成27年3月末現在）

	総人口	65歳以上高 齢者	高齢化率	一人暮らし の高齢者
大崎市 全体	133,651人	35,421人	26.5%	5,264人
岩出山 地域	11,617人	4,171人	35.9%	617人
鳴子温 泉地域	6,716人	2,787人	41.5%	563人

# 鳴子温泉地域要介護者情報

65歳以上の高齢者は、2,772名(要支援又は要介護の認定を受けている方は632名)

(平成27年11月1日現在)

要支援1	114名
要支援2	69名
要介護1	153名
要介護2	84名
要介護3	63名
要介護4	78名
要介護5	71名

# オレンジカフェ活動の流れ①

平成24年、25年～

玉造地域では・・・できることからはじめよう

- ・地域ケア会議の中で認知症関連の話題提供
- ・こころのケアアンケート結果報告
- ・中学校でサポーター養成講座
- ・地域の施設間の交流開始(お祭り参加)
- ・定期会合(情報交換、施設見学)

➡交流しているうちに事業所間の関係が深まり、

「もっと交流がしたい！」・・・活動をさらに進めよう

## オレンジカフェ活動の流れ②

### 認知症カフェの取り組み

- ・各事業所と情報交換していく中で、それぞれの場所で地域の方から認知症や介護の相談を受けていることが分かった！

⇒地域の方が「相談の場面」と「ご本人の交流の場面」を求めている

「集いの場があるといいな」…これって**認知症カフェ**？



# 認知症カフェの取り組み

## 平成26年度 認知症カフェの実際

	日	名 称	場 所	参加者
第1回	6月19日	本人・家族の交流会を実施 (大崎市認知症家族交流会を認知症 カフェの形態で実施)	GH なんてん岩出山	本人2 家族4 職員7
第2回	8月29日	認知症カフェ『よっていがいん』 ～玉造地域の認知症の人と家族と地 域の交流の場～	鳴子保健・福祉 総合センター	職員11
第3回	9月18日	認知症カフェ『よっていがいん』 ～玉造地域の認知症の人と家族と地 域の交流の場～	GH なんてん岩出山	本人2 家族2 職員7
第4回	10月16日	本人・家族の交流会を実施 (大崎市認知症家族交流会をカフェ の形態で実施)	鳴子保健・福祉 総合センター	家族3
第5回	1月22日	本人・家族の交流会を実施 (大崎市認知症家族交流会をカフェ の形態で実施)	特別養護老人 ホーム岩出の郷	本人1 家族1 職員3

# さて・・・27年度認知症カフェ 『よっていがいん』は？

宮城県認知症グループホーム協議会において  
オレンジ（認知症）カフェ設置促進・普及  
啓発事業を実施する事業所を募集！

県内のGHにおいて8事業所参加（ふかふか・はうす含）

・ 35000円の助成金

条件として・・・

・ 年に5回以上開催

・ 各モデル事業の取り組みの実際の報告

・ マニュアル作成

# “認知症カフェ推進チーム”再発足

## <ネットワーク会議>

7月21日 場所：好日館

- ・ふかふか・はうす
- ・なんてん岩出山
- ・玉ちゃんの家
- ・りんどう苑
- ・あったかいご岩出山
- ・高齢介護課地域支援係
- ・岩出山市民福祉課
- ・鳴子市民福祉課
- ・玉造地域包括支援センター

計14名  
参加

## <宮城県認知症グループホーム協議会>

5月12日

宮城県認知症カフェ設置促進・  
普及啓発事業についての説明会

7月14日

オレンジカフェ実施事業所説明会  
(高齢介護課支援係・玉造包括  
センターからも出席)

10月27日 進捗状況・今後の予定

12月16日 //

# オレンジカフェ『よっていがいん』

## 日程・担当票

### ●鳴子温泉地区

時 間	場 所	内 容	備 考	担当（午前）	担当（午後）
7月28日	好日館	お茶会等	観光客、ご近所の方々 民生委員 民生部高齢介護課 家族の会代表、他25名	ふかふか・はうす 玉ちゃんの家 包括	ふかふか・はうす 玉ちゃんの家 岩出山総合支所
8月25日	好日館	お茶会 介護相談	民生委員の方の紹介で ご近所の方々、他32名	ふかふか・はうす 玉ちゃんの家 地域支援係	ふかふか・はうす りんどう苑 包括
9月29日	好日館	池田敏美 さんのバ イオリン 演奏	他、地区よりご夫婦 看護師学校学生 ご近所の方、他28名	ふかふか・はうす あったかいご岩出山 鳴子総合支所	ふかふか・はうす あったかいご岩出山 包括
10月27日	好日館	お茶会	観光客 病院帰りのご夫婦 ヘルパーさん、他25名	ふかふか・はうす なんてん岩出山 鳴子総合支所	ふかふか・はうす なんてん岩出山 包括
11月24日	好日館	お茶会	観光客 他グループホームの職 員、入居者、北部保健 福祉事務所 他24名	ふかふか・はうす 玉ちゃんの家 鳴子総合支所	ふかふか・はうす 玉ちゃんの家 包括

# オレンジカフェ『よっていがいん』

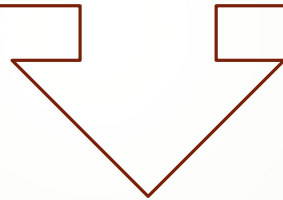
## 日程・担当表

### ●岩出山地域

	時 間	場 所	内 容	担 当
9月15日	10時～12時	なんてん岩出山	歌声喫茶 ミニ講話「グループホームの中での生活」 座談会 17名参加	なんてん岩出山 あったかいご岩出山 岩出山総合支所 包括
11月10日	10時～13時	なんてん岩出山	歌うカナリヤ会 座談会「認知症の人と家族会の方を囲んで」 交流会&軽食 50名	なんてん岩出山 あったかいご岩出山 岩出山総合支所 包括 ふかふか・はうす 玉ちゃんの家

# 認知症カフェの位置づけ

認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う



住まい・医療・介護・予防生活支援が一体的に提供される地域づくり

# ま・と・め

これからも、地域の実情を  
把握し、地域づくりも含め  
認知症の人と家族、地域と  
専門職種が相互に情報を共  
有し、お互いを理解し合う  
**「場づくり」**を今後も続け  
ていきたい！

# オレンジカフェ 東部圏域 地域報告会

平成27年12月8日  
宝江ふれあいセンター  
グループホームあさみず





## 医療法人仁泉会 グループホームあさみずの紹介

所在地：宮城県登米市中田町

平成13年3月に開所 4ユニット 定員33名

介護老人保健施設、訪問系サービス事業所等に隣接

カフェの名称：あさみず ふれあい サロン

月1回、毎月第4火曜日 10時～12時

開催場所：浅水ふれあいコミュニティーセンター（公民館）

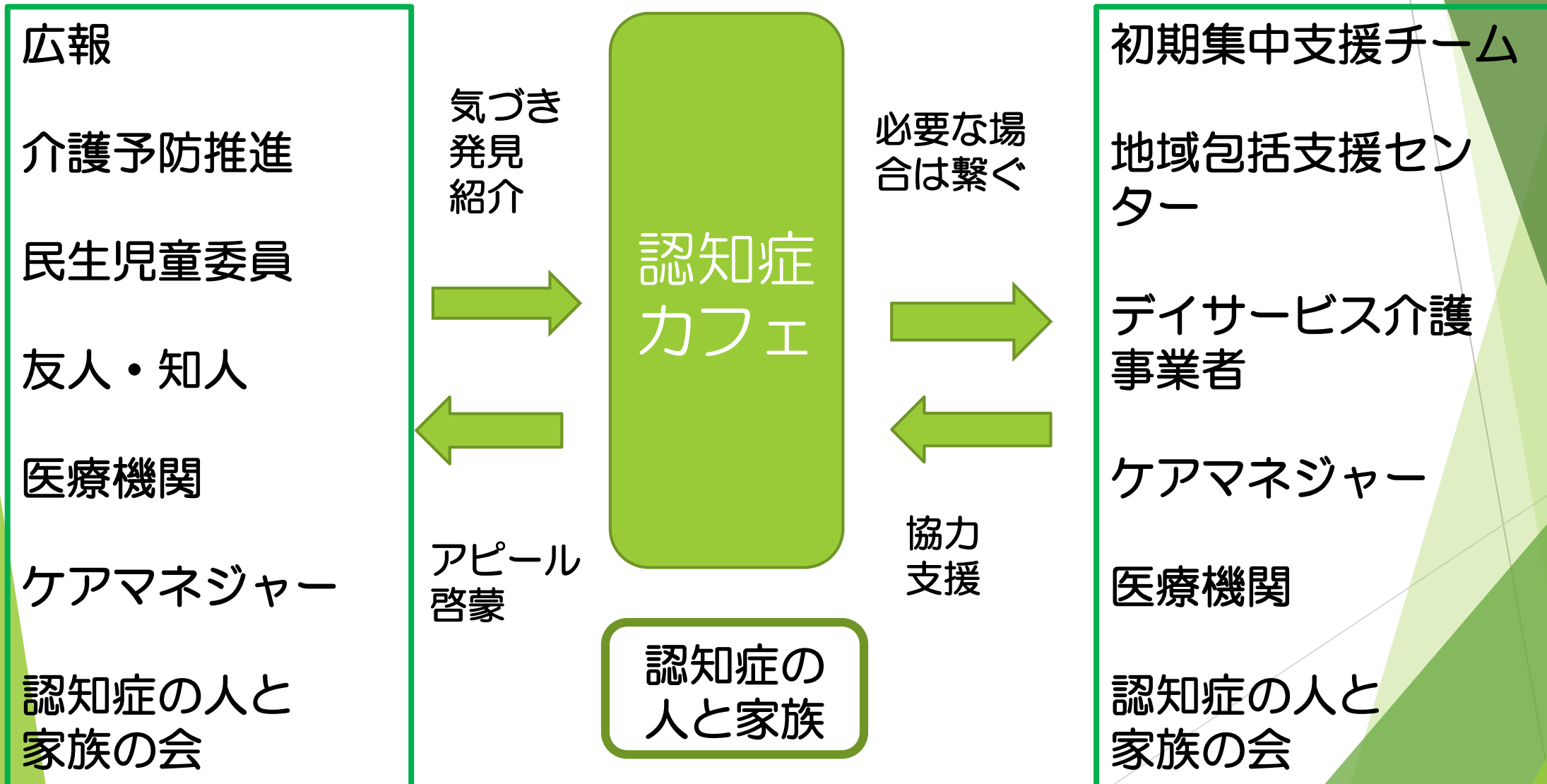
# オレンジカフェ（認知症カフェ）とは？

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の中で認知症の本人やその介護家族者の負担軽減がうたわれています。

- \* 「地域での日常生活・家族の支援の強化」が柱の中にあり、その一助となるのが認知症カフェになります
- \* 認知症を患う本人やその家族、支援する人たちが参加して話し合い、情報交換を行います。
- \* 発症の有無によらず、誰でも参加ができます。
- \* 歓談中心ですが、専門職も滞在し健康相談やレクチャーがあることも。

# 認知症カフェの役割と諸機関等との関係

～主に認知症初期のケアの空白期間の方が対象～



## 宮城県認知症カフェ設置促進・普及啓発事業

- ▶ 平成27年度NPO法人宮城県認知症グループホーム協議会が宮城県から委託を受ける事になりました。
- ▶ 保健所圏域5地域で拠点となる認知症カフェをモデル設置し、定期的にカフェを開催することになりました。
- ▶ 宮城県からの補助金は1回につき7000円
- ▶ 開催回数は5回以上との条件で5回分の補助金を頂きました。
- ▶ グループホームあさみずでは7月から12月まで6回開催
- ▶ 毎月第4火曜日 午前10時～12時頃まで
- ▶ 参加費100円 名称；あさみず ふれあい サロン
- ▶ 地域包括支援センター職員2名ずつの参加協力頂く

# 開催場所について

- ▶ 浅水ふれあいコミュニティーセンター 研修室
  - ▶ 地域に開かれた場所で開催したい
    - 興味のある方は誰でも参加が可能、多くの人々の目に触れる場所で。
  - ▶ 集まりやすさ
    - 自転車でも歩いてでも参加が可能、公共の場で人の目を気にすることなく相談や息抜きができる集まりやすい場所
- \*グループホームの中には入居者様の生活があり、多くの方の出入りすることで不安になったり、混乱する方々も中にはあります。

# あさみずふれあいサロン 参加内訳

参加者	認知症の人	介護家族	地域の人	専門職	その他	合計
第1回目 7月28日	10人	0人	2人	12人	0人	24人
第2回目 8月25日	4人	1人	2人	7人	1人	15人
第3回目 9月22日	5人	2人	1人	7人	5人	20人
第4回目 10月27日	4人	3人	5人	8人	0人	20人
第5回目 11月24日	1人	3人	4人	8人	0人	16人

## 広報の方法について

- ▶ 浅水地区全戸（706戸）に行政区長さんを通してチラシの配布
- ▶ 浅水地区の民生児童委員さんを通して気になる方にチラシを手渡しして頂きながら声をかけて頂く
- ▶ 各地域包括支援センターへチラシを郵送し声をかけて頂く
- ▶ 近隣の居宅、介護事業所へのチラシ配布と声掛け
- ▶ 近隣の了解を頂いた病院や店舗へチラシの掲示
- ▶ 浅水地区のミニディサービス開催時に紹介

## 内容について

- ▶ 歓談が中心
- ▶ 脳トレドリル、小物作りを自由に選択
- ▶ ミニレクチャーを毎月30分程度提供

【認知症予防、夏の健康食、しっかり噛めば健康になる、リフレクソロジーの体験、杖やシルバーカーの正しい選び方】・・・専門職が講師になります。

- ▶ 個別相談の対応や個別マッサージ（タクティールケア、リフレクソロジー等）の提供





# オレンジカフェの効果と課題

## ▶ 効果

- 介護されている家族が具体的な介護の対応方法を再確認できた。
- 介護中のご家族の方、介護を経験し終わられている方が交流し相互支援が行われるようになった（苦難の時の仲間）
- 認知症を持つ方も一緒に活動を行い地域の方々に認識して頂ける時間を持つことができた
- 家族間の相談事を参加者の方の了解をとり、包括支援センターの職員に相談としてつなげた
- 認知症介護の専門職とやりとりする事で有効な相談窓口の紹介ができた

# オレンジカフェの効果と課題

## ▶ 課題

- 地域への周知方法はチラシに加え、個別に声を掛けたり実際の紹介の場があると有効的である
- 初期の認知症本人の方の参加が難しい・壁がある。
- 公民館での開催は地域限定の意識があり他地域の方々が参加をためらってしまう
- 参加者のニーズに合わせていく、ニーズを探り出していくにはスタッフには様々な知識と技術が必要になる
- プログラム、アクティビティーを豊かにするためのネットワーク